

本県関係の答申物件概要

【重要伝統的建造物群保存地区選定】

名 称	南越前町今庄 <small>いまじょうしゆく</small> 宿伝統的建造物群保存地区
所 在 地	南越前町今庄の一部
面 積	約9.2ヘクタール
種 別	宿場町
選 定 基 準	(二) 伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの

特徴と評価 【越前地方の豪雪地、今庄に発展した旧北陸道の宿場町】

南越前町は福井県のほぼ中央、嶺北地方の南部に所在する。今庄は南越前町のほぼ中央、南条山地の山間部に位置する豪雪地である。今庄は京滋方面と福井とを結ぶ交通の要所にあり、天正6年(1578)頃に北ノ庄城主の柴田勝家が街道を整備し、慶長5年(1600)に結城秀康が越前国を領有すると、同7年に北陸道の伝馬制てんませいを整備して今庄宿を置き、以後、宿駅として繁栄した。今庄宿は南北に延びる街道に沿って町並みが形成され、中心部には本陣や脇本陣といやば、問屋場、藩札を扱う御札場等おふだばが置かれた。江戸時代には四回の大火が知られ、現存する建物の多くは文政元年(1818)大火以後に建てられたとみられる。宿駅制度廃止後も、明治29年に北陸線敦賀駅・福井駅間が開業すると、昭和37年の北陸トンネル開通及び北陸本線電化まで、地域の中心として、また鉄道の町として発展を続けた。

保存地区は、旧北陸道沿いに形成された旧今庄宿の宿場のほぼ全域である。地割は江戸時代の宿場町の姿を良好に残すとともに、近代における発展の様相も見られ、江戸後期から昭和30年代までに建てられた伝統的な建造物が歴史的な町並みを形成する。街道沿いに多く見られる平入の主屋は、木太い登梁を二階の軒先に突き出す豪壮な造りが特徴的で、二階の両端には袖壁そでかべを付し、一階の正面に

は格子等をはめる。江戸時代の主屋では卯建うだつを上げるものや正面の壁を前側に傾けるものもある。宿場の縁辺には妻入つまいりの主屋も見られる。また、冬期に庇の下に設ける雪囲いも特徴的である。

南越前町今庄宿伝統的建造物群保存地区は、慶長年間に成立した北陸道の宿場町である。地割は江戸時代の姿を良く留め、街道沿いには江戸後期から昭和30年代にかけて建てられた、木太い登梁と袖壁が特徴的な平入の主屋と街道縁辺の妻入主屋が特徴ある町並みを形成する。越前地方の豪雪地に発展した旧北陸道の宿場町の歴史的風致を良く伝える。

- 備 考
- ・ 県内の重要伝統的建造物群保存地区選定としては3例目。
(平成8年 若狭町熊川宿、平成20年小浜市小浜西組)
 - ・ 嶺北での重要伝統的建造物群保存地区選定は初めて。



地区範囲図



今庄宿の町並み（中心部より南を望む）



今庄宿の町並み（中心部より南を望む）平入の町家が並ぶ



卯建を上げる町家（旧京藤甚五郎家住宅）



妻入の町家（町並み北側）



近代の建物（昭和会館）



近代の建物（酒造施設）



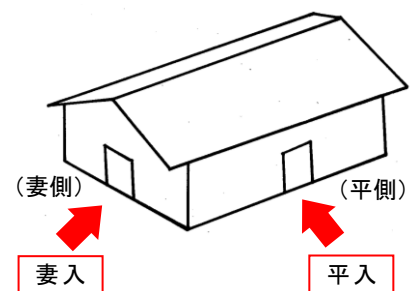
雪囲い設置の様子



（参考）昭和 38 年豪雪



◀（参考）町家各部名称



▲（参考）平入・妻入

福井県内の国指定・県指定等文化財

(令和3年5月答申・官報告示後)
(件)

区 分	国指定		国選定	国選択	国登録	県指定	備 考	
	国 宝 特 別	重 文 国指定						
有 形 文化財	建造物	2	28			226	28	
	絵 画		14				78	
	彫 刻		35				82	
	工芸品	3	8			1	30	
	書跡・典籍・古文書	1	15				21	
	考古資料		5				16	
	歴史資料		3				7	
	計	6	108			227	262	
無 形 文化財	芸 能							
	工芸技術		2				4	
	計		2				4	
民 俗 文化財	有形民俗文化財		1			1	10	
	無形民俗文化財		5		12		65	
	計		6		12	1	75	
史跡・名勝・ 天然記念物	史 跡	1	24				29	
	名 勝	1	14			2	7	
	天然記念物	4	17			1	31	
	名勝天然記念物		1					
	計	6	56			3	67	
文化的景観			3					
重要伝統的建造物群保存地区			3				今庄宿選定により 2→3	
選定保存技術								
合 計	12	172	6	12	231	408		
	184							